北海道港湾空港建設協会

会報

令和5年5月



No.108

大津漁港(写真提供:釧路開発建設部 釧路港湾事務所)



北のみなと



◎大津漁港の役割

大津漁港は、北海道太平洋沿岸、えりも岬の東側に位置し、①周辺海域で操業するサケ定置網、小型底びき網等の沿岸漁業の流通拠点、②周辺海域で操業する漁船の避難拠点としての役割を担っている第4種漁港です。

◎主な整備方針

- ①サケ等の衛生的な陸揚げ環境を確保し、 国内外への水産物供給力強化を図るための屋根付き岸壁の整備
- ②大規模災害発生後における水産業の早期 再開を目的とした耐震・耐津波性能を強 化した岸壁整備とともに、岸壁に接続す る道路の液状化対策の実施
- ③津波による漁船の浸水・流出被害防止を 目的とした漁船保管施設用地の嵩上げ 実施
- ④港内静穏度向上を目的とした突堤の新設 及び防波堤港内側における消波工設置

一目次一

Keport	
北海道港湾空港建設協会 第38回通常総会開催	1
令和4年度 安全管理講習会	3
開会挨拶 (北海道港湾空港建設協会会長 藤田 幸洋)	
「港湾・空港・漁港工事の安全対策について」 (北海道開発局港湾空港部港湾建設課建設第3係長 中山 仁)	
「建設工事における労働災害防止について」 (北海道労働局札幌中央労働基準監督署安全衛生課長 山本 真吾)	
特別講演 「現場の安全施工サイクルと安全指示について」 (建設業労働災害防止協会北海道支部駐在安全管理士 小林 昭夫)	
令和4年度 港湾空港工事報告会	6
開会挨拶 (北海道港湾空港建設協会会長 藤田 幸洋)	
工事報告	
「 歯舞漁港ー3.5m岸壁改良その他工事」 (村井建設株式会社 土木舗装部 千坂 大)	
「稚内港北護岸防波改良工事」 (藤建設株式会社 稚内事業部 阿部 正和)	
「小樽港岸壁(-10m)改良工事」	
(近藤・勇経常建設共同企業体代表 近藤工業株式会社 土木部 藤原 真一)	
「釧路港土砂処分場護岸A部建設工事」	
(葵建設株式会社 土木部 矢野 正人) 特別講演「SCOPEの概要と最近の動向」	
付加調度「SOOPEの概要と販担の動向」 (一般財団法人 港湾空港総合技術センター北海道支部長 中島 靖)	
講 評(北海道港湾建設協会 技術委員会副委員長 梅沢 信敏)	
(第3回)将来の北海道を支える港湾・漁港・空港建設業の体制を考える研究会・・・	13
受賞	
稚内港北防波堤ドーム予防保全事業	
	15
各種記事	
我が社の安全衛生管理	
(拓殖工業㈱ 工事部長 二本柳 圭一)	16
私の趣味「怪我の功名?」	
(堀松建設工業㈱ 社長 堀松 和彦)	18
Topics	
-	
苫小牧港東港区浜厚真地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の着手について (北海道開発局 室蘭開発建設部)	20
Information	
・ 事務局だより・業界だより・広報委員会だより	21



北海道港湾空港建設協会

第38回通常総会開催

当協会の第38回通常総会について、令和5年4月20日(木)ホテル札幌ガーデンパレスにおいて開催致しました。 会員数75社のうち59社に出席をいただき、令和4年度の事業報告・収支決算および監査報告、令和5年度の事業計 画(案)・収支予算(案)について原案どおり承認されました。

なお、令和5年度事業計画として、引き続き安全管理講習会や工事報告会、北海道開発局等発注機関への要望及び意 見交換に取り組んでいくことを確認しました。



総会の様子

冒頭、あいさつに立った藤田会長は、昭和61年協会設 立以来、港湾空港建設業の社会的地位の向上及び発展に 向け、活動を行ってきたことをはじめ、耕地面積が日本



藤田会長挨拶

の4分の1で日本一の水揚げ高を誇る北海道は日本の 食料基地であり、港整備は絶対欠かすことができない要 素であること、また、自然豊かな北海道はコロナ収束後 のクルーズ船旅客の受け入れやインバウンド観光の振興 に対応した港湾空港の機能強化が望まれると話されまし た。さらに建設業は社会資本整備の担い手、安全・安心 確保の担い手としての役割はますます重要ある一方、労 働時間の上限規制への対応、デジタル化の推進、働き方 改革、担い手不足、生産性向上など建設業に課せられた 課題は多いと指摘され、これまでの取組みと合わせてま い進する姿勢を示されました。

来賓である北海道開発局の鈴木 徹港湾空港部長は、 港湾空港の令和5年度予算概要を説明され、対前年比1.0



は確保されたとの説 明がありました。ま た、港湾、漁港、空 港事業の概要をはじ め、セントラル方式 による調査をはじめ とする洋上風力発電 の現状、CO2吸収 対策等の説明があり ました。



北海道開発局 鈴木港湾空港部長

また、建設業を取り巻く、担い手確保、働き方改革、 生産性向上等について、諸経費モデル工事をはじめとす る取り組みについて話されました。

最後に工事安全について「昨年度は休業4日以上の工 事事故は発生しなかったものの、一昨年に比べ、事故件 数は増加したことから今年度工事については十分、工事 安全に留意して欲しい。| との話がありました。

日本港湾空港建設 協会連合会の林田 博会長は、港湾建設 業界の現状について 話され、業界として 量(事業量)及び質 (利益)を伴う仕事 ができるよう取り組 んでいく旨の挨拶を されました。



日本港湾空港建設協会連合会 林田会長

令和5年度 事業計画

1. 講習会等

- 1) 安全管理講習会の開催 港関係7団体共催による安全管理講習会の開催 及びCPDS取得促進に向けたWEB配信の実施。
- 2) 港湾空港工事報告会の開催 港湾空港建設技術の開発、向上を目的とし、会員 が施工した港湾、漁港、空港工事について、施工 管理、品質管理等に関する報告会の開催及び

CPDS取得促進に向けたWEB配信の実施。

3)シンポジウム等への参画

港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建 設業の社会的地位の向上と健全な発展を図ると ともに港湾空港整備の促進に寄与するため、関係 行政機関、関係団体と連携したシンポジウム等へ の参画。

2. 要望及び意見交換

- 1) 北海道開発局等に対し、港湾空港関係予算及び実 施に関する要望及び意見交換会の実施
 - ①港関係7団体共催による要望・意見交換会の開
 - ②日本港湾空港建設協会連合会との共催による要 望・意見交換会の開催
- 2) 北海道港湾振興団体連合会の一員として港湾整備 促進及び利用振興活動の参画

3. 調査研究

港湾空港建設技術の開発、向上に関する調査研究及 び資料の収集並びにその他工事の施工等に関する事 項についての調査研究の実施

4. 会報の発刊

港湾空港建設業における社会的地位の向上に関する 宣伝及び啓発等を目的とした会報「北のみなと」の発 刊(3号予定)

5. 他事業への参加

- 1) 日本港湾空港建設協会連合会が開催する行事の参 加
- 2) 防災訓練への参加

「災害発生時における港湾施設等の緊急的な応急 対策業務に関する包括協定」等に基づく防災訓練 の参加

3) 北海道開発局との協働事業への参加 令和4年度も継続される各種事業及び新規事業の 積極的参加

令和4年度 安全管理講習会

日 時 令和5年2月16日(木)

場所ホテル札幌ガーデンパレス

主 催 北海道港湾空港建設協会

(一社) 日本埋立浚渫協会北海道支部 全国浚渫業協会北海道支部

(一社) 日本潜水協会札幌支部

(一社) 北海道建設業協会港湾・漁港部会

(一社) 日本海上起重機技術協会北海道支部

(一社) 全日本漁港建設協会北海道支部



安全管理講習会

港関係7団体が安全管理講習会を開催 安全対策、労働災害の防止と 安全施エリサイクルと 安全指示について

北海道港湾空港建設協会(藤田幸洋会長)と道内の港 関係7団体は、令和5年2月16日(木)ホテル札幌ガー デンパレスにおいて「令和4年度 安全管理講習会」を 開催しました。当日は、各団体の関連企業からリモート 参加者も含めて95名(うちWeb参加37名)が参加し、 労働災害の現状と防止について知識を広めました。

講習会は、北海道港湾空港建設協会 藤田幸洋会長の 開会挨拶で始まり、引き続き北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課 中山 仁建設第3係長と北海道労働局 札幌中央労働基準監督署 安全衛生課 山本真吾課長よ り、労働災害の現状と防止対策について講演が行われま した。 また、特別講演では、建設業労働災害防止協会 北海 道支部 小林昭夫安全管理士より、現場の安全施工サイ クルと安全指示について講演が行われました。

藤田会長は、冒頭の挨拶で、会場参加者及びWeb参加者へ感謝の意を表した後、建設業の課題として、生産性の向上、処遇改善などによる働き方改革の実現



主催者挨拶 藤田会長

に向けた取り組みが求められていますと述べられました。 また、建設施工の5大管理には、品質管理、原価管理、 工程管理、環境管理、安全管理があり、いずれも大事な 管理ですが、その中でも、安全管理が最も大切な管理と し「安全は全ての事柄に優先する」とのことでした。

最後に、労働災害の防止は現場任せにすることなく、 企業が一丸となって対処しなければならない。本日の講 演会を港湾建設における労働災害防止に役立てていただ きたいとお願いをし、挨拶とされました。



中山建設第3係長 演が行われました。

講演では、初めに北海道 開発局 中山建設第3係 長より「港湾・空港・漁港 工事の安全対策について」 と題し、港湾・空港・漁港 工事の労働災害について講

初めに、令和4年度の重点対策について触れられ、事 故撲滅に向けて施工計画書の安全面からの点検強化、安 全協議会等での働きかけ及び安全パトロールにおける確 認に取り組んできたことを報告し、はさまれ・巻き込ま れ事故の防止対策など8つの重点項目について、具体的 な説明がありました。

港湾・空港・漁港工事の事故発生状況は、令和5年2 月現在で11件発生しており、昨年の同時期と比較すると6件増加しているが、休業4日以上の事故は0件であるところを見ると、今年度の取り組みにより大きな事故に対する防止の意識が高まったと推察しているとのことでした。

北海道開発局全体の工事事故発生状況をみると、港湾空港関係の事故件数は他部門を下回っているが、事業費の割合で比較すると事故件数が多い方ということです。また、令和2年から令和4年にかけ「おぼれ」による死亡災害が続きましたが、死傷災害では依然として「はさまれ・巻き込まれ」による事故が多いということでした。

この後、令和4年度に発生した事故事例、各種試行の 取り組みについて説明し、最後に、発注者も工事の事故 防止に取り組んでいくので、皆様も本日の資料を活用し て安全な施工に取り組んでほしいとお願いされました。 続いて、北海道労働局 山本安全課長より「建設工 事における労働災害事故防 止について」と題し労働災 害の防止について講演が行 われました。



山本安全衛生課長

初めに、北海道の労働災害の発生状況について触れられ、全産業で発生した死亡災害数は、平成18年以降100人を下回り、令和4年は49人、建設業では23人の見込みとのことです。また、昨年と比べて、全産業の8月以降の休業者数が増えているのは、新型コロナの影響により医療機関での休業者が増えたためとのことでした。札幌管内では、令和3年に死亡者数20名を数え、過去最高を記録したとのことでした。

事故の型別では、墜落・転落による事故が依然として 多く発生し、全体の約3割を占めています。起因物別で は、仮設物・建築物・構造物等で多く発生したとのこと でした。

続いて、建設業における労働災害事例を4件紹介した 後、今年の4月1日より義務付けとなる、危険有害な作業を行う事業主が一人親方や労働者以外の人に対して行 う保護措置、月60時間を超える時間外労働の割増賃金率 の引き上げ、北海道冬季ゼロ災運動について説明し、最 後に、北海道労働基準局で配信している「安全衛生通信」 を現場の安全教育に活用してほしいとお願いされました。

特別講演では、建設業労 働災害防止協会の小林安全 管理士より「現場の安全施 エサイクルと安全指示につ いて」と題し講演が行われ ました。



小林安全管理士

まず初めに、令和4年に発生した事故事例を紹介し、 冬季養生屋根の崩落では雪の状態により重さが変わることに留意して仮設計画を立てること、掘削高が2m以下 でも崩落しそうな場合は仮設を設けること、牽引するト ラックとトラックの間には入らないこと、屋根からの落 雪により埋もれた場合は口回りの空間を確保する等の留 意点について説明がありました。

次に、毎日の安全施工サイクルの中や現場内の至る所で、安全指示は日常的に行われているが、指示を出す側と受ける側、指示の内容と伝え方によっては指示が上手く伝わらず事故に繋がるとし、上手く伝えるためには①実際の作業場所で指示する ②誰が何をするかを具体的に指示する ③指示をした後、実際の作業をみて確認することが特に重要であるとのことでした。

続いて、化学物質規制体制の見直しについて触れられ、 現場における管理とチェック項目、化学物質管理者と保 護具着用管理責任者の選任と職務、元請会社と協力会社 が行うべきSDSとRAについて説明がありました。

最後に、3月となり工期末が近づいてくる工事では ヒューマンエラーが起こりやすくなるので、会社として 安全対策を強化し事故無く良い年度末が迎えられるよう にお願いし、特別講演を終えました。

RH'1/3/Ho

令和4年度 港湾空港工事報告会

h/Ho

月 日 令和5年2月16日(木) 会 場 ホテル札幌ガーデンパレス 主 催 北海道港湾空港建設協会

令和5年2月16日(木)ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、95名の参加(うち、WEB参加37名)による当協会主催の「令和4年度 港湾空港工事報告会」を開催しました。

報告された工事は、令和3年度に村井建設株式会社、藤建設株式会社、近藤・勇経常建設共同企業体及び葵株式会社

が施工した4件で、工事を担当した技術者が工事内容、現場における課題及びその対応、地域貢献などを紹介しました。4件のうち、2件については北海道開発局におけるi-Con奨励賞を受賞した工事であり、参加者は各工事の(工程・品質・安全)管理、創意工夫、ICTなどについて活発な質疑を行い、技術の研鑽を深めました。



港湾空港工事報告会

主催者挨拶

開催にあたり、 主催者を代表して 北海道港湾空港建 設協会 藤田会長 から①当協会は昭 和61年設立以来、 港湾空港建設技術 を開発、向上させ



主催者挨拶 藤田会長

ることを主目的として事業を行っており、事業の発展を

図るためには、各会員の真摯で、たゆまぬ努力による技術力の開発、向上が不可欠であること、②その中で、令和3年度に完成した工事から、難易度の高い工事、評価点の高い工事を選定したこと、③今回から、働き方改革の重要な取り組みの一つであるi-Constructionの普及促進に向け、建設現場における生産性向上の優れた取り組みを表彰する「北海道開発局i-Con奨励賞」受賞工事から2つの工事を選定したことの説明がありました。

また、特別講演は「SCOPEの概要と最近の動向」とのタイトルで一般財団法人 港湾空港総合技術センター中島北海道支部長にお願いした旨の話がありました。

工事報告

工事報告は、村井建設㈱、藤建設㈱、近藤・勇JV及び葵建設㈱の工事担当者が工事概要・工程管理・安全管理、課題に対する対応及び創意工夫の取り組み等について説明されました。なお、近藤・勇JV及び葵建設㈱は北海道開発局i-Con奨励賞を受賞したことからICT関係の取り組みを中心に説明されました。

●歯舞漁港-3.5m岸壁改良その他工事



村井建設株式会社 土木舗装部 千坂 大氏

- 受 注 者 村井建設株式会社
- 工期令和3年7月20日~令和4年3月25日
- 発注者 釧路開発建設部
- 工事内容
 - 1. 歯舞地区
 - (1) 土木工事
 - ①-3.5m岸壁(改良)

舗装工1式排水構造物工1式送水管敷設工1式

②取水施設

排水構造物工 1式

(2) 営繕工事

①取水施設

 建築工事
 1式

 電気設備工事
 1式

 機械設備工事
 1式

(3)機械設備工事

①揚排水ポンプ設備 (新設)

製作工 1式 据付工 1式

2. 温根元地区

(1) 土木工事

構造物撤去工1式本体工(場所打式)1式仮設工1式

• 報告概要

工事概要、施工フロー、図表、写真により、工 事内容、課題及び解決策等を分かりやすく説明さ れました。

特に歯舞地区においては他の漁港工事及び漁協 建築工事と輻輳することから他工事との調整が 課題となり、①毎週開催される週間工程会議にお ける打合せ、②毎月、事業者、発注者及び工事関 係者による連絡調整会議の参加、③その他、施工 業者間においても個別の打合せを行い、工程調整 を行ったことが報告されました。さらに全体工事 が円滑に実施されるよう発注者と各受注者間に おいて、工程検討を行い、発注者主導のもと、工 事内容の変更も含めた全体工程の調整が行われ たことが報告されました。

また、潮流水による排水構造物下面における均 しコンクリートの品質低下対策として、①大潮 (低潮位)時の施工、②潮流水流入防止のための 止水ボールの採用、③均しコンクリートとして二 次製品を採用したことが報告されました。

温根元地区においては施工箇所近傍にウニ種苗施設用の取水施設があること及び漁港付近がウニの漁場であることから汚濁防止対策が必要となり、①汚濁観測装置によるモニタリング(管理基準値を超えた場合、警告音及び警告メールによる周知)、②排水に関しては汚濁防止膜の設置及び沈殿槽設置を行いました。

また、流氷来襲を考慮し、工期短縮を目的として①既設堤体のはつりを人力からツインヘッターによる機械切削施工に変更、②起重機船を80t吊クレーン付台船から120t吊起重機船に変更し、作業効率の向上を図ったことが報告されました。

Report.3

●稚内港北護岸防波改良工事



藤建設株式会社 稚内事業部 事業係長 阿部 正和 氏

- 受 注 者 藤建設株式会社
- 工 期 令和3年5月26日~令和4年3月25日
- 発 注 者 稚内開発建設部
- 工事内容

○稚内港

• 北護岸(防波)

消波工 L=103.4m (6.3t~10t N=161個)

床版工 L=90.9m

胸壁工 L=90.9m

柱 工 N=4本

• 報告概要

独特のドーム形状である北護岸の老朽化対策を 目的とした工事概要、施工フローチャート、図表、 写真により、工事内容を分かりやすく説明されま した。

工事内容については①護岸胸壁部(港外側直立部)の補修を行うための既設消波ブロック撤去、②曲線形状をした護岸床版部(屋根)の補修を行うための階段・足場設置、③床版部、胸壁部のコンクリートの取り壊し及びコンクリート打設、④階段、足場撤去、⑤消波ブロック据付及び柱部の補修について説明されました。

施工にあたり、既設構造物が曲面形状のため、 安全性、施工効率向上を目的にH鋼レール上に足場を固定した台車を設置した移動足場(2基)を 採用したこと、曲面部(床版部)において、はつり装置、作業足場を移動足場間に設置することに より、手動ウインチによる縦・横移動が可能と なったとの報告をいただきました。

また、床版部(屋根部)は曲線形状のため、ウォータージェットはつりでは切削深さの確保が困難

なことから曲面形状に対応した曲面フレームを 採用することにより切削深さの確保が容易に なったことが報告されました。

さらに床版部(屋根部)切削深さの測定に赤外線レーザーを用いることにより①省力化(4人が2人)、②測定精度向上が図られたとの報告がありました。

一方、柱部の補修については平成28~30年度の 試験結果をもとに柱部に発生したひび割れを対 象に塗布補修を実施したとの報告がありました。

●小樽港 岸壁 (-10m) 改良工事



近藤工業株式会社 土木部 土木課 課長 藤原 真一氏

- 受 注 者 近藤·勇経常建設共同企業体
- 工 期 令和3年3月17日~令和4年2月18日
- 発 注 者 小樽開発建設部
- 工事内容

○小樽港

岸壁 (-10m)

海上地盤改良工

床掘工 V=941㎡

揚土土捨工 V=941㎡

埋戻工 V=2.092m³

本体工 (鋼矢板式)

鋼矢板工

鋼矢板 SPⅢW L=17.5m N=155枚

控 工

控鋼杭 φ600 N=15本、φ700 N=24本 タイ材 TR-117 L=20.7m N=15組、 TR-130 L=21.1m N=25組

裏込・裏埋工

裏込工

裏込材 雑割石 V=8.031㎡

水砕スラグ V=17,470㎡

土工

土 工 1式

裏込石撤去 1式

構造物撤去工

基礎捨石撤去 V=682㎡

舗装版破砕 A=357㎡

既設ケーソン取り壊し工 1式

防舷材撤去 N=10基

仮設工 1式

• 報告概要

工事概要、施工フロー、CIMを活用した図、写真により工事内容を分かりやすく説明されました。

課題として打設鋼矢板が全長の1/4程度の根入れ長では自立しないことから導杭・導材を残置した状態で次工程を行わなければならず、全施工延長分の作業足場を設置することから、導杭ブラケット、タイワイヤー取付部及び鋼矢板凹凸部との干渉が懸念されました。対策として①干渉を考慮した導杭配置の検討、②各スパン毎に作業足場を計算し、導杭にブラケット設置を行い、干渉しない施工が可能となったと報告されました。

次に鋼矢板打設において、導材とバイブロハンマーのチャックが干渉し、所定の高さまで打設が行えないことが判明したことから、鋼矢板を当初より0.5m長いL=17.5mとするとともにCIMモデルにより上部工施工時に係船柱アンカー及び上部工鉄筋との干渉について確認しました。

また、CIMモデルにより腹起し材の連結部において横連結部ボルト(M36)とプレートの干渉が判明したことから横連結部ボルトの変更(M24)を行ったと報告されました。

さらに両端は既設鋼矢板が打設されており、閉塞打設となることからパイルナビを用いて各枚数毎に延長、傾斜を確認しながら鋼矢板打設を行い、7枚残した状態で上部・中間・下端の残延長を計測し、その結果をもとに異形鋼矢板2枚を製作することとし、支障なく閉塞することができた

との報告がありました。

●釧路港土砂処分場護岸A部建設工事



葵建設株式会社 執行役員土木部長 **矢野 正人**氏

- 受注者 葵建設株式会社
- 工 期 令和3年9月7日~令和4年3月24日
- 発注者 釧路開発建設部
- 工事内容

○釧路港

• 土砂処分場護岸A部

海上地盤改良工 グラブ床掘、海上運搬、揚土・ 運搬・整地 1,584㎡

基礎工 捨石投入2,527㎡ 捨石本均し(±5cm) 1,078㎡ 捨石荒均し(±30cm,±50cm) 768㎡

本体工 ケーソン据付3函 中詰材投入3,297㎡ 蓋 ブロック運搬据付W=26.8t 24個 W=25.8t 8個 蓋目地Conc 161㎡ 水 中Conc 76㎡

被覆・根固工 ブロック運搬・据付 W=24.8t/ 個 40個 2t型 269個

裏込・裏埋工 石かご製作9個 裏込材投入 1.727㎡

• 報告概要

ICT技術活用内容を中心に工事内容を分かりやすく説明されました。

工事内容については①着工前測量としてマルチビームを用いた測量を行い、本測量で得られたデータ及びGNSSによる海上潮位データを用いて数量算出を行ったこと、②ケーソン据付においては自動追尾型トータルステーション(杭ナビ)を用いることにより据付精度向上とともに省力化も図られたこと、③被覆・根固ブロック据付作業

における安全対策として「潜水士位置監視機能搭 載ブロック据付施工管理システム | を導入したこ と、④BIM/CIM活用として属性情報付与、3D モデルの整合性をはじめ施工計画の実現性確認 及び施工方法等の検討を行った等、説明されました。

特別講演

工事報告の後に、(一 財) 港湾空港総合技術 センター北海道支部長 靖様より 中島 「SCOPEの概要と最近 の動向 | と題して特別



特別講演 中島支部長

講演をしていただきました。

1. SCOPE全体の業務概要と最近の動向

はじめにSCOPEの組織・役割、SCOPEが行っている 研究助成内容、技術者認定及び登録制度の説明がありま した。

2. SCOPE北海道支部で実施している業務の概要と最 近の動向

次にSCOPE北海道支部で実施している業務として① 総合的な技術支援(発注補助業務、監督等補助業務等)、 ②ICTをはじめとする技術革新 (ドローン撮影、洋上風 力発電事業)の説明がありました。

総合的な技術支援の中で発注補助業務については北海 道開発局の各開発建設部が発注する工事の積算にあたり、 必要な図書(工事発注図面、数量算出書、積算根拠資料 等)の作成及び積算システム入力を行うこと、監督等補 助業務については工事実施の監督補助及び検査補助を行 い、監督職員を支援していることが説明されました。

次にその他業務として令和6年4月以降、建設業に適 用される時間外労働の上限規制を背景とした働き方改革 推進方策及び適正化に向けた調査検討業務について説明 されました。

また、ICTをはじめとする技術革新関係として①工事

予定箇所等の状況把握及び写真測量の技術向上を目的と したドローン撮影、②洋上風力発電事業において、海外 機関と協業し、洋上作業を審査・管理・監督する業務参 画していることが紹介されました。

講 評

最後に技術委員会、 梅沢信敏副委員長より 各工事報告について以 下の講評が行われまし た。



最初の2件は、北海

講評 梅沢技術副委員長

道開発局の優良工事表彰において栄えある北海道開発局 長賞を今年度受賞された工事、また、後半の2件は、令 和2年度に北海道開発局において創設されたi-con奨励 賞を今年度受賞された工事です。

まずは、ご報告いただきました4名の皆様、今年度も それぞれの受注工事を担当されておられるものと存じま すが、本発表資料の取りまとめ、並びにプレゼンテーショ ンのご準備、そして本日のご発表とご多忙の中、誠にあ りがとうございました。

報告議題の一番目は、千坂(ちさか)様のご報告によ ります村井建設株式会社施工の「歯舞漁港-3.5m岸壁 改良その他工事」でした。

本工事は、歯舞漁港歯舞地区において、高度な衛生管 理体制を構築するための岸壁改良及び取水施設の整備を、 また、温根元地区においては、防波堤の長寿命化を図る ための補修工事をそれぞれ実施するものです。

ご報告にありましたとおり、本工事は他機関の発注す る工事と輻輳するなど調整事項も多く、更に後発の工事 のため、工期末を見据えた工程管理を行わなければなら ない難しい条件下にありました。

特筆すべき点としましては、歯舞地区の排水構造物工 の施工において、大半が潮位の低い夜間作業により実施 することに加えて、均しコンクリートの施工においては、 受注者側からの提案により、潮流水の影響による品質劣 化を極力抑え、工期短縮にも寄与できるプレキャスト製

品を導入したこと、また、温根元地区において、当初設 計ではブレーカーによる人力施工を想定していた防波堤 の既設本体コンクリートのはつり作業に、ツインヘッ ダーによる機械切削施工を導入することを提案し、彫り こみ過ぎの防止による正確な撤去寸法を確保するととも に、大幅な工期短縮につなげ、省力化・効率化を図られ たことが上げられます。

以上、他の取り組み事例を含め、積極的に発注者側と 緊密な意志疎通関係を築き、出来栄え、品質とも良好な 成果に結びつけたことに対しまして、心から敬意を表す る次第です。貴重なご報告、誠にありがとうございました。

報告議題の二番目は、阿部様のご報告によります藤建 設株式会社施工の「稚内港 北護岸防波改良工事」でした。

本北護岸は北海道土木遺産等に選定され、皆様もご承 知のとおり、通称、北防波堤ドームと呼ばれています。

本工事は、曲面形状をなす床版部と胸壁部、更には柱 部の補修を行うものです。

特に、港外側に位置する床版部の補修にあたっては、 格子状に切られたエリアごとに老朽化の度合いが判定さ れており、その結果に基づいて、はつるコンクリートの 深さが変わるため、より慎重な施工に加えて効率的な出 来形計測、更には、港外側からの波浪による影響も考慮 した、安全な仮設足場のセットと移動の効率性が求めら れるといった極めて高度な技術力を必要とするものです。

これらの課題に対して、仮設足場に関してはクレーン を使わずに移動できる曲面形状に合わせた「移動式足場」 を導入し、効率性と安全性を確保するとともに、コンク リートのはつり作業に関しては、採用したウォーター ジェット工法において、通常の直線ではなく曲面形状に 合わせたフレームを製作し、噴射ノズルと壁面との距離 を一定に保つことで、出来形精度を向上させ、更には、 出来形管理においても、レーザー測定器を導入し、測定 精度の向上と省人力化を図るなど、随所に、より良いも のを安全に、効率的に作り上げようとする藤建さんの熱 意と技術力の高さを強く感じた次第です。本当にお疲れ 様でした。

報告議題の三番目は、藤原様のご報告によります 近 藤·勇JVの施工による「小樽港 岸壁 (-10m) 改良工事」 でした。

本工事で受賞されましたi-Con奨励賞は、「生産性向上 に資する優れた取り組みを行ったものに授与する」と事 務取扱要領に規定されております。選考基準には、いわ ゆるイメージされるICT施工やBIM/CIMの活用だけでは なく、プレキャスト活用等の全体最適化により生産性向 上に顕著な成果が得られたものや新技術の活用、デジタ ル技術の活用により生産性の向上に関し創意工夫に努め たもの、更には、i-Conに係る担い手確保や人材育成に 資する取り組みについても選考の対象に含まれています。

この分野の進化のスピードは極めて速いものがありま すが、今回初めて、i-Con奨励賞の受賞工事を本工事報 告会で紹介させていただくことにしました。当協会とし ましても、港湾・漁港・空港部門におけるi-Con事例の 収集と情報の水平展開を今後とも図っていく所存ですの で、会員企業の皆様、又、官側各位の皆様のご協力を引 き続きお願いいたします。

本題に戻りまして、本工事は、小樽港のクルーズ需要 やクルーズ船の大型化に対応するため、老朽化対策も兼 ねて、第3号ふ頭岸壁を増深改良するものです。

本工事におけるi-Con奨励賞の受賞理由としては大き く二つ。一つは、矢板式岸壁の控え鋼管杭と前面側の鋼 矢板打設時の出来形測定に、自動追尾式のトータルス テーションとICT施工現場端末アプリ、通称「快測ナビ」 と呼ばれているiPadやスマホ上で、杭頭など打設時の位 置座標を表示・確認できるアプリを組み合わせて施工管 理を行った点です。これにより、施工管理を効率化し、 測量作業の省人化を図ることで、生産性の向上に繋げた ことが評価されました。もう一つは、CIMモデルを作成 することで、現場経験の少ない作業員にも現場施工のイ メージを正しく理解させるとともに、施工前に施工機械 と部材、或いは部材同士の干渉チェックを行い、手戻り を回避した点が上げられます。具体的には、バイブロハ ンマーによる鋼矢板打設時にバイブロチャックと導材と が干渉すること、また、鋼矢板及び鋼管杭に配置する腹 起し材の連結部において、横連結部ボルトとプレートが 干渉することをCIMモデルによる3D画像によって施工 検討段階で把握することができ、発注者との協議を経て、



手戻りなく、困難な条件を克服し、施工の効率化と生産 性の向上に繋げたことが高く評価されたものです。

この他にもGNSSを利用した浚渫位置管理システムの 導入や水中ドローンによる水中部施工箇所の目視確認、 また、スリーエスバックホーの使用による安全対策の取 り組みなど、他の現場への適用も大いに推奨されるICT 技術が目白押しの工事でした。

本日のご報告を拝聴し、i-Con導入への積極的な姿勢 と併せて、それを本当の意味で工事に生かしていこうと される近藤・勇IV関係者の真摯な姿に大変感銘を受け た次第です。本当にお疲れ様でした。

報告議題の四番目は、矢野様のご報告によります 葵 建設株式会社の施工による「釧路港 土砂処分場護岸A 部建設工事」でした。

本工事は、釧路港において土砂処分場護岸を建設する 工事のうち、ケーソン3函を据え付けるものです。

本工事におけるi-Con奨励賞の受賞理由としては大き く二つあり、その基本的な取り組み内容としては、先の 小樽港の工事と同様です。

一つは、自動追尾式トータルステーションとスマホや タブレット端末を使用して、ケーソン据付時の位置座標 をリアルタイムで確認しながら所定の位置に誘導・据付 けるもので、本工事においても施工管理の効率化による 生産性の向上と測量時の省人化が図られたことが高く評 価されたものです。

もう一つは、CIMデータを活用した施工検討の実施や ケーソンやブロック等の据付状況をオペレータのみなら ず、作業員全員がタブレット表示により確認できるなど、 先進性の認められる取り組みが評価されたものです。

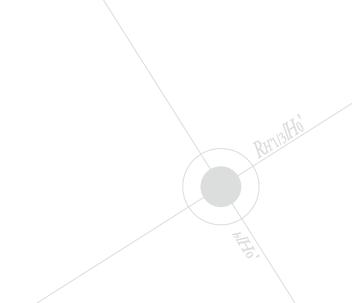
この他にもICTを用いた一連の作業に若手技術者を補 助者として登用したり、VRを用いた安全教育を実施し たりするなど、技術者の育成にも力を入れられており、 見習うべき取り組みが多くありました。本当にお疲れ様 でした。

以上、4件の工事報告をいただいたわけですが、各工 事への質疑応答の中にも若干ありましたが、私ども民間 サイドとしましては、やはり、工事の実施に関して生じ る想定外の事象に対して、その原因の明確化といいます

か、施工段階でなければ分かり得なかった事象なのか、 発注前の調査・設計・積算段階に何らかの検討不足があっ て生じたことなのかという点について、発注者側との協 議の中で具体的に話し合われたものと思いますが、今回 のご報告にも率直に加えていただくと良いのではないか と思います。その上で、善後策の検討内容や設計変更に よる対応状況等について、整理、取りまとめいただくと、 官民双方の協力により、更なる生産性の向上を目指して いく上で、大きな示唆が得られ、港湾建設業界全体の発 展に資するものと思う次第です。

この点につきましては、来年度以降のご報告に期待し たいと思います。

最後に、あらためて、特別講演をいただいたSCOPE 中島支部長様、並びに、工事報告をいただいた千坂様、 阿部様、藤原様、矢野様、そしてご来場、またWEB聴 講によりご参加くださいました全ての方々へのお礼を述 べられ、工事報告会が終了しました。





Fの北海道を支える を考える研

令和5年3月24日(金)ニューオータニイン札幌において、北海道開発局港湾空港部、農業水産部及び港関係7団体 により構成された「将来の北海道を支える港湾・漁港・空港建設業の体制を考える研究会(第3回)」が開催されました。 本研究会は北海道の港湾・漁港・空港建設事業に携わる各団体と北海道開発局が官民の垣根を越えて、働き方改革、 担い手の確保・育成、生産性の向上のほか、各整備事業の体制強化に資する対策について意見交換を行うことを目的と して昨年度設立されました。

以下に第3回研究会の概要を報告します。

なお、令和5年度以降も定期的な開催が予定されています。

第3回研究会の概要

第3回研究会では事務局から①令和4年度研究成果 報告、②令和5年度の研究事項(案)提案の後、意見交 換が行われました。

概要は以下のとおり。



藤田会長

1. 令和 4 年度 研究成果

- 1) 4週8休(週休2日試行工事の達成状況)
 - ①達成率:令和2年度85%、令和3年度95%、令 和 4 年度99% (未達 1 件)
 - ②未達要因:離島(無人島)工事であり、工事適 期限定(6~9月)及び荒天のため、休日作 業を実施したため。
 - ③令和5年度の取り組み:
 - ・工期指定型、荒天リスク精算型の積極的採用
 - ・ 個人単位の休暇取得
- 2) 中長期事業の実施に向けての課題検討
 - ①必要に応じ、中長期事業について、情報更新を 行う。
- 3) 諸経費率、設計価格と実勢価格との乖離
 - ①諸経費率
 - ・「諸経費検証モデル工事」を試行し、元・下 請間の経費確認を行った上で現場管理費率



- の割増波及効果を確認する。
- ・諸経費動向調査については引き続き、情報収 集を行い、積雪寒冷地等、北海道特有の状況 が反映されるように取り組む。
- ②設計価格と実勢価格との乖離
 - ・懸案であった「海上材料投入費」について令 和5年4月1日以降の入札書提出工事から見 積活用方式を採用。

4) 外国人労働者への対応

- ①コロナの影響もあり、実態調査の結果、従前と 大きな変化なし。一方、業界がおかれている労 働市場に変化はなく、引き続き、労働者不足・ 担い手不足の解消に向け、フォローアップを行 う。
- 5) 設計時における施工上の問題解決窓口の設置
 - ①設計、施工検討時における検討不足による工事 の手戻り防止を目的としてコンサルタントの 相談窓口を北海道港湾空港建設協会に設置。
 - ②令和3~4年度、6件の施設について相談等 実施。

2. 令和5年度 研究事項(案)

- 1) 諸経費率、設計単価と実勢価格との乖離、労務費 等の実態把握
 - ①設計価格と実勢価格における乖離実態の把握及 び課題整理を実施。

2) 外国人労働者への対応

- ①業界実施のアンケート及び地域懇談会をもとに 外国人労働者定着のための環境整備等に向け たフォローアップ実施。
- 3) 気候変動の影響による外郭施設の機能確認
 - ①気候変動の影響により海面上昇、波高増大及び 波向変化等が指摘されている。
 - ②このため、各港において、外郭施設の越波等の



第3回研究会の様子

実態を把握するとともに気候変動による海象 条件の変化に対し、外郭施設における対策を行 う上での課題検討を行う。

4) 担い手の確保・育成に関する官民協議による取組 ①リクルート、現場見学会の共同開催、担い手育 成のスキルアップのための体制作り及び運営 支援を官民協働の実施に向けた検討を行う。

3. その他

出席委員から研究テーマとして以下の項目も対象とし てはどうかとの発言があった。今後、具体的内容につい て、検討することとした。

- 1) 洋上風力、カーボンニュートラルに関する研究
- 2) 作業船活用に向けた研究

土木学会 インフラメンテナンスプロジェクト賞 受賞 **稚内港北防波堤ドーム 予防保全事業**



「稚内港北防波堤ドーム予防保全事業」が、公益社団法人土木学会の2022年度インフラメンテナンスプロジェクト賞を受賞しました。本賞の受賞は、北海道開発局では初となります。

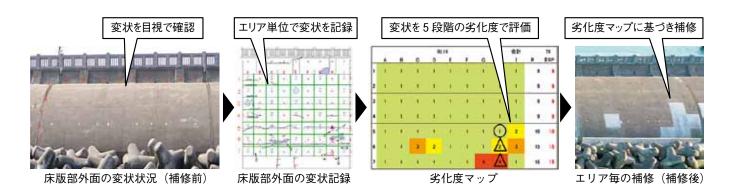
h/Ho'

北防波堤ドームは、1978年から3カ年で全面改修を行いましたが、再び劣化が顕在化してきたことから、2016年より補修工事を実施しております。この施設は、アーチ形をした床版部の面積が広大であり、部材性能の評価や補修範囲の設定が一般的な港湾施設とは異なることから、既往の知見では要求性能に応える補修計画の立案が困難でした。このため、独自の判断基準として、変状を鉄筋腐食リスクにリンクさせた5段階の劣化度で格付けし、エリア単位で評価した「劣化度マップ」を考案し、効率的かつ合理的に床版部外面の補修工事を進め予防保全に取り組みました。

この取り組みにより、歴史的価値があり地域の貴重な財産である北防波堤ドームの機能を維持し、今後も地域活性化に大きく貢献されることが期待されます。



北防波堤ドーム全景写真



我が社の安全衛生管理

拓殖工業株式会社 工事部長 二本机



1. はじめに



地域の創造と振興に取り組み 『豊かな未来を拓く』

拓殖工業株式会社は、広尾で創業して60年近くになる 地元に根ざした歴史ある企業です。創業以来、安全で誠 意ある仕事を積み重ね、受注実績も安定し、安心して働 ける企業です。土木建設業界では慢性的な人手不足と なっていますが、北海道で自然災害から人を守り、人と 人をつなぐライフラインを作り、豊かな未来ある暮らし を実現する町を作ることが、私たちの使命です。

2. 安全衛生管理計画書



拓殖工業株式会社は、事業者・労働者双方が労働災害 防止のため、安全を最優先に考え、時間的・人的余裕を もって作業を計画し、万が一発生した不測の事態には、 全職員・全下請業者が他者の安全を優先させ取り組むこ とで、安全意識の統合をはかる。

安全施設は視認性を考慮し、第三者に配慮したものとす る。

職場環境において心と体の健康を保守できるよう、快 適性能を重視した衛生施設を充実させる。

1. 基本方針

- ① みんなで作ろう職場の余裕、1つのミスはみんな で挽回
- ② 労働者の安全と健康を確保し心と体を快適に

2. 本年度の目標

安全を最優先し、時間的・人的余裕をもって作業を計 画し、不測の事態には全員一致で取り組む

安全施設の視認性を向上させ、職場環境の心と体を快 適化、みんなで守る快適職場

3. スローガン

「現場の安全は目でみて見える化。確認を!」

4. 本年度の重点施策(項目)

安全衛生管理体制関係

安全衛生委員会による安全衛生計画実施

リスクアセスメント関係

職場の危険有害要因を特定・評価し、継続的にリス クの低減を図る。

労働安全マネジメントシステム関係

安全衛生管理活動の評価及び意見交換を次年度の安 全衛生管理活動に繁栄させる。

設備の改善関係

作業手順書の周知徹底で、だろう作業撲滅の工夫、 提案と改善意識の高揚

安全衛生教育関係

快適職場推進・休日確保、現場毎の衛生環境を整備、 安全意識の高揚と継続

健康管理関係

フォローアップの実施と確認、健康意識の高揚と自 己管理の徹、メンタルヘルスケアの推進(心の健康 作り)

交通労働災害防止対策関係

交通安全は高齢者と子供を守る「人優先」高齢ドラ イバー守る地域一体の運行



3. 安全衛生管理基本方針



(重点施策)

- 1. 2 m以上の作業床無い作業は墜落制止用器具を使用
- 2. 親綱の使用 (親綱スパンは10m以下)
- 3. 手摺り先行足場の使用
- 4. 作業に適した作業床の確保 (隙間12cm未満)
- 5. 事業者が行う「足場」の作業床からの墜落防止措置等
- 6. 足場、通路は常に整理し不要材、残材を置かない
- 7. 不安全行動をさせない、しない、見逃さない
- 8. 2 m以上の所からパイプ、型枠、材料を投げ下ろさ

ない

- 9. 当日作業内容、作業方法、安全指示の周知徹底、記 録の保存
- 10. 建設機械、移動式クレーンは作業計画書に基づいた 作業の周知徹底
- 11. 快適職場推進・休日確保・現場毎の衛生環境整備
- 12. 健康診断の実施と、要検査者の継続治療の実施
- 13. エコ対策の推進と、廃棄物の減少と分別、適正処理 の徹底

4. 安全衛生管理活動

1. 安全衛生大会・安全衛生委員会

春季・秋季において安全意識の向上及び意思疎通を目 的とした、安全衛生大会を開催しています。

安全衛生委員会により、年度毎の安全衛生管理計画を 立案し、各現場への周知及び意思疎通を行います。



安全衛生大会

2. 店社安全衛生パトロール

安全衛生委員会により、月次店社安全衛生パトロール を実施し、各現場の安全衛生管理及び快適化の促進が行 われているかの確認を行います。

フォローアップ結果を周知確認し、他現場への意思疎 通を図ります。



店社安全衛牛パトロール

5. 作業所安全衛生管理活動

1. 安全衛生教育訓練

各作業所毎に月1回安全衛生教育訓練を実施してい ます。

現場毎の重要事項を事前に周知し事故防止に努めます。



安全衛生教育訓練

2. 災害防止協議会

各作業所毎に月1回災害防止協議会を開催しています。 協力業者による巡視及び協議により、安全の為の作業 間調整や、詳細な安全衛生の向上をはかります。

3. 新規入場者教育

新規入場者の体調や健康状態などを確認し、入場時の 現場条件周知を行います。

4. 安全朝礼・KYKミーティング

前日に打合せした作業内容周知事項を安全朝礼にて周 知確認し、意思疎通を図ります。

作業計画・作業手順書を周知確認し、各作業班ごとに KYKミーティングを実施、当日作業の危険個所を洗い 出し周知確認、意思疎通を行います。

6. その他の活動まとめ



当社では各現場毎の見学会を実施しており、各市町村 の子供たちを対象に建設現場での社会体験を通じて未来 の担い手育成に力をいれております。

建設業界を取り巻く環境は大変厳しいものではあり ますが、今後も技術力の研鑽につとめ、誠意ある仕事を 通して、社会貢献と建設業の役割を果たしていきます。

『怪我の功名?』

堀松建設工業株式会社 代表取締役社長 堀林 和彦

仲間とスノーボード

趣味は何ですか? と聞かれると「今はバイクで すかね一」と答えています。

私が21歳(1992年、30年前)の時だったと思い ますが、私はまだ当社では働いておらず、札幌市内 において建設業とは畑違いの会社で働いておりまし た。その時、仲の良かった同郷の友人から、スノー ボードを一緒に始めないかと誘われ、面白そうだと 思い始めることにしました。当時は、まだスキー場 へ行ってもボードに乗っている人は少なく、ボード 禁止のスキー場も珍しくなかったと思います。最初 は立つこともできず、山の頂上から下まで1時間ぐ らいかけて転がって降りてきました。私のボードデ ビューは、2本転がり降りたところでギブアップと なりました。次の日、体中にあざができ筋肉痛も相 まって1週間くらい痛みが取れなかった事を覚え ています。その後もスキー場へ通い続け、シーズン が終わる頃には転がらずに滑れるようになりました。 それからボードにはまった私は、冬は時間があれば 山に行く生活が20年ほど続くことになります。

バイクとの出会い

ところが、冬以外はこれと言って趣味もなく友人 と夜遊びばかりしていました。ボードを始めて3年 ぐらいたった夏だったと思いますが、いつものよう に友人と朝まで飲んでその友人の家で昼頃まで寝て いた時に、友人の家の前で、バイクの大きな排気音 が聞こえて目が覚めました。家の窓から外を見ると バイク3台が止まっていました。友人の知り合いだ というので外に出ると、その3人の内2人が友人の 職場の1歳上の先輩だとの事で、3台のバイクの内 1台は、映画マッドマックスの悪役が乗っていそう な国産のバイク、後の2台がハーレーでした。その 時、私が初めてハーレーを間近で見た時でした。

それまで私のハーレーのイメージは、アメリカの 警察の格好をした小太りのおじさんが乗るバイクと いう感じだったんですが、そこにいる2人は全然違 いました。ダブルのライダースにリーバイスの517 (多分) にエンジニアブーツで、その当時私の周り にいない感じの身なりだったので、私の目に新鮮に 映りました。その先輩方と20分くらい話をした後、 その3人は、独特な排気音で走り去っていきました。 その3人のライダースの背中には、モヒカンの骸骨 の刺繍がしてあったの覚えています。後で友人に聞 いたら、当時、私ぐらいの年代の人たちの間では有 名だった札幌のバイクチームとの事でした。

私もハーレーに乗りたいと思い、バイク雑誌を見 たのですが車体価格が高くて諦めていました。

スノーボードでの入院とバイク購入の夢

数年後、手に入れるチャンスがやってきました。 私は、1994年に今までの仕事を辞め、堀松建設に入 社して、2年目に道南の現場に行っていた時、仕事 が終わって近くのスキー場のナイターに滑りに行っ て、転んで右の鎖骨を骨折してしまったんですが、 このままボードを続けていたら、また怪我をする可 能性があると思い生命保険の契約数を増やしていま した。

2004年冬に留萌の本社勤務の時に、ナイターで 滑っていた時に、左鎖骨を骨折してしまい、入院中 に保険金を頭金にしてバイクを買う事を決め、病室 でバイク雑誌を見まくってワクワクの入院生活を過 ごしました。

ハーレーダビッドソンのこだわり

私はハーレーに 興味を持ってから 毎月バイク関連の 雑誌を読み漁って いましたので自分 が乗りたいバイク のスタイルは大体 決まっていました。 私の兄は多趣味で 凝り性な兄でした



が、私も同様に凝り性だと思います。(ここから ちょっと私の知っている範囲でマニアックな話に なっていきますがご了承ください。)

私が一番バイクにこだわったところは、フレーム がグースネックであることでした。グースネックと いうのは、和訳するとガチョウの首となるのですが、 フレームのネック部分がガチョウの首のような形状 になっているフレームのことを言います。カスタム されたハーレー好きの方ならグースネックと聞いた だけで、思い当たるカスタムビルダー(カスタムバ イクを作る人)の名前が思い浮かぶと思います。

念願のバイク購入と免許取得



その方は当時、愛知県に あったバイク屋の代表なん ですが、私もバイクを買う ならその店でバイクを作っ てもらおうと思い電話をし ました。オーダーして最短 で3年、最長で5年待ちと 聞いて私は、早くバイクが 欲しかったので諦めました。バイク雑誌で群馬県に あるバイク屋でいい感じのバイクを見つけ、知り合 いから紹介してもらった旭川のバイク屋で取り寄せ てもらい購入を決めました。バイクは決まったもの の、実はバイクの免許を持っていなかった私は、退 院してから雪が解けるまでの間に、旭川の教習所に 通い、教習の帰りにバイク屋によってエンジン始動 (キック)の練習をする日々を5週間続け、その年の ゴールデンウィークに無事納車になりました。

初めの1.2年はバイクに慣れていないこともあり、 色々と苦労しましたが、今では大きなトラブルも故 障もなく早いもので19年が経ちました。その間、結 婚し娘も生まれて、バイクに乗る時間がなかなか取 れませんが、これからも乗り続けていきたいと思い ます。





おわりに

最後になりますが、昨年8月に当社、前社長で私 の兄でありました、故堀松一郎が生前皆様に大変お 世話になりました事に心から感謝申し上げます。私 はまだまだ若輩者ですが、港湾業界発展の為に精進 してまいりますので、引き続き皆様からのご指導と ご鞭撻をよろしくお願いいたします。取り留めの無 い文章、乱文乱筆になった事をお許しください。

苫小牧港東港区浜厚真地区複合 一貫輸送ターミナル整備事業の 着手について

室蘭開発建設部は、令和4年度より、苫小牧港東港区 浜厚真地区において、新たな複合一貫輸送ターミナルの 整備に着手しました。

苫小牧港は、昭和38年に世界初の大規模内陸掘込式の 港湾として開港した西港区と、昭和55年に苫小牧東部開 発計画により開港した東港区からなる港であり、北海道 の発展を支えてきました。

東港区浜厚真地区においては、秋田・新潟航路、敦賀 航路の2つのフェリーが共用し、道内各地から集荷した 道産の農水産品等を全国に移出しています。秋田・新潟 航路については主に東北・関東等に向けて移出していま すが、フェリーの出航時間に間に合わない場合は函館・ 青森間のフェリーを利用している状況にありました。し

北海道開発局 室蘭開発建設部

かしながら、2024年度からのトラックドライバーに対す る時間外労働の上限規制適用により、トラック輸送に係 る更なる労働力不足が懸念され、道東や道北から函館港 への陸上輸送が困難となり、今後、農水産品の安定的な 供給が危惧されております。

また、「平成30年北海道胆振東部地震」の大規模自然 災害の経験を踏まえ、切迫している日本海溝・千島海溝 沿いの巨大地震に備えるべく、東港区の背後圏への緊急 物資輸送を確保することが必要です。

本事業の実施により、トラックドライバーの労働規制 に応じたフェリーダイヤ設定を可能とすることで、北海 道産の農水産品の効率的な移出が可能となり、北海道に おける農水産業の振興はもとより、我が国の農水産品の

> 安定的な国内供給にも寄与する ものと期待しております。

これにより、第8期北海道総 合開発計画に掲げる「地域の強 みを活かした産業の育成」およ び「強靱な国土づくりへの貢献 と安全・安心な社会基盤の形成し にも資するとともに、現在検討 が進められている新たな北海道 総合開発計画においても重要な 役割を果たすものと考えており ます。

引き続き、今後の工事安全と 周辺環境への配慮に万全を期し、 早期の事業完成により、地域の 皆様のご期待に応えてまいりま す。



現地施工状況(サンドコンパクションパイル打設)

rmation

◎事務局だより◎

◎行 事

1. 第3回 広報委員会

月日: 令和5年2月10日

内容:会報(108号)掲載内容の審議(メール開催)

2. 令和 4 年度 安全管理講習会

月日:令和5年2月16日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

内容:港湾関係7団体による安全管理に係る講習会

3. 令和 4 年度 港湾空港工事報告会

月日: 令和5年2月16日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

内容:港湾・水産関係工事に係る報告会

4. 日本港湾空港建設協会連合会 第85回運営委員会

月日: 令和5年2月21日

場所:アジュール竹芝(東京都) 内容:総会議案審議、藤田会長出席

5. 常任理事会

月日: 令和5年3月23日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

6. 第3回 将来の北海道を支える港湾・漁港・空港建 設業の体制を考える研究会

月日: 令和5年3月24日

場所:ニューオータニイン札幌

内容:北海道開発局港湾部門と港関係7団体による ※広報委員会からのお願い

働き方改革、担い手確保、生産性向上及び各

事業の体制強化等の対策について意見交換

7. 第38回通常総会及び理事会

月日: 令和5年4月20日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●大成建設株式会社札幌支店

専務執行役員支店長 今 憲昭 令和5年4月

●清水建設株式会社北海道支店

執行役員支店長 竹中 康博 令和5年4月

●株式会社大林組札幌支店

執行役員支店長 矢納 正人 令和 5 年 4 月

●伊藤組土建株式会社

代表取締役社長 大谷 正則 令和5年4月

●北興工業株式会社

代表取締役社長 宮崎 健吾 令和5年4月

●株式会社草塩建設

代表取締役 草塩 広幸 令和5年4月

◎広報委員会だより◎

令和5年4月現在の広報委員は以下のとおりです。

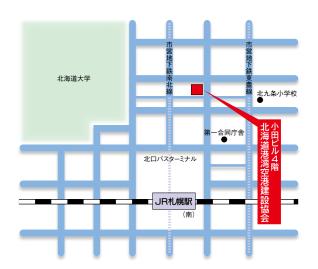
委 員 長	小野寺 勇	東亜建設工業㈱
副委員長	古田 圭也	東洋建設(株)
(部会長)	宮部 秀一	㈱菅原組
(副部会長)	上 野 強	釧石工業(株)
	阿 部 勝	五洋建設(株)
	石川 洋一	あおみ建設㈱
	今 林 弘	菱中建設(株)
	岡元 節雄	(株)不動テトラ
	小 玉 茂 義	東亜建設工業㈱
	相 馬 洋	近藤工業株
	髙木 哲夫	萩原建設工業㈱
	千 葉 不二夫	勇建設(株)

- 1. 新造船 (機械・装置含む) の紹介
- 2. 注目される工事の着工、完成
- 3. 工事現場の紹介
- 4. 各地域の技術研究会・イメージアップ事業 等のご投稿をお待ちしております。



「写真提供: 釧路開発建設部 釧路港湾事務所」

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.108

発行年月 令和5年5月

発 行 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階) TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733

http://www.hokkaido-kkk.jp Email:hkkk@h4.dion.ne.jp

編 集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会

編集責任者 宮部 秀一

印 刷 ㈱須田製版